

## 「若者利用増アクションプラン」概要作成 チームの活動について

### 1. チームの結成

2001（平成12）年度からのヤングアダルト（以下「YA」とする）層の図書館利用の活性化をめざした取組みも、その時々イベントの集客はできても、図書館利用のリピーター化ができないという状況を打破できなかった。

そこで2007（平成19）年度に、若者の利用者を増やし、リピーターとするための提案をするという趣旨で、社会教育主事が館内の若手の司書に呼びかけをして、有志でチームが結成された。構成は総務課3名（うち社会教育主事2名）と企画協力課・閲覧第1課・閲覧第2課・閲覧第3課（こども資料室）の司書4名の計7名、チーム名は『若者利用増アクションプラン』概要作成チーム（以下、アクションプランチーム）である。

### 2. 提案内容を出し合う

まずは、実現の可能性を考慮せず、国内外の他の図書館の現状なども調査し結果を視野にいれながら、批判なしに活発に意見を出し合い、思いつくことを書き出していくというやり方をした。会議で出されたアイデアは以下の通りである。

- ・若者が作成した本の紹介文を掲示する
- ・若者が選書を行うグループをつくる
- ・ホームページ上にYA向けの掲示板をつくる
- ・YA向けの本の紹介冊子「ヤングアダルトYA！YA！YA！」をもっといろいろな場所におく
- ・「ヤングアダルトYA！YA！YA！」の編集に携わってもらう
- ・「ヤングアダルトYA！YA！YA！」のホームページ上のアップ
- ・実際に若者がどのようなサービスを求めているのかを調査するための投書箱を設置する
- ・YAの（居場所）たまり場をつくる
- ・近隣の学校によびかけ若者のチームをつくる

・できたチームにダンスカーニバルの運営や、「ヤングアダルトYA！YA！YA！」の編集に携わってもらう

・自分たちの希望するサービスを企画してもらう

### 3. 実現へ向けての集約作業

これらを更に会議のなかで議論を深めていき（1）組織をつくる（2）場所をつくる（3）資料をそろえるの3つの大枠に沿いながら、実現可能性、有効性を数値化して総合評価を行うというやり方で、実施するアイデアを絞り込んでいった。実現可能なものとしては、①「ヤングアダルトYA！YA！YA！」のホームページへのアップ②「ヤングアダルトYA！YA！YA！」の掲示場所を増やす。実施したいものとしては、①POPコンテスト②多目的スペースを有効利用する③YAコーナーの設置（これはいち早く2007（平成19）年度末に実施に移された）などであった。

### 4. 「YA！YA！YA！利用活性化チーム」へのバトンタッチ

具体的に館内での様々なYA向けの活動が本格的に動き出すのは、2008（平成20）年度からになる。まず組織面では、館内に「YA！YA！YA！利用活性化チーム」が各種委員会の中に設けられ活動を開始した。まずは2007（平成19）年度から準備を進めていたYA向けサイト「べんりやん図書館」が5月に公開された。その後「本のPOP広場」の実施、「若者ダンスカーニバル」での図書館紹介タイムの担当、高校などへ出向いての意見交換へとつながっていく。

通常はあまり仕事で交わることの無い総務部と司書部のメンバーがチームを結成し、定期的に会議を持ち、企画の段階から協力して活動を展開するというのは、当館にあっても画期的なことであった。平成20・21年度のYA向けサービスの更なる展開の基礎は、アクションプランチームの活動からでてきたものであるといえる。